

令和 5 年 6 月 7 日現在

機関番号：23304

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2022

課題番号：16K12129

研究課題名（和文）中山間地域における妊産婦の健康支援サービスの構築

研究課題名（英文）Establishment of Maternal Health Services for Expectant and Nursing Mothers in Hilly and Mountainous Regions

研究代表者

坂本 めぐみ（Sakamoto, Megumi）

公立小松大学・保健医療学部・教授

研究者番号：50279577

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,700,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、少子化と人口減少が進行している中山間地域の妊産婦に対して、周産期を中心とした母子保健サービスの向上と今後の支援体制を検討することであった。

中山間地域の母子保健ならびに救急医療を担う医療専門職へのインタビュー、対象地域の妊婦・産後の女性を対象とした健康教育の実施と評価、対象地域の高校生のプレコンセプションケアに関する意識調査を実施した。その結果、対象地域に居住する若者や妊産婦が地域の周産期医療の現状を理解し、周産期の健康を保持増進するための支援、継続的で丁寧な子育て支援が必要であり、さらにこれらを推進するための専門職の人材確保が必要であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は周産期医療体制の過疎化が問題となっている中山間地域において、安全に出産や子育てができることを目的に現状や対策を検討した研究である。本研究では中山間地域の周産期医療施設と、母子保健を担う専門職の人材が不足している現状と、妊産婦ならびに次世代を担う若者への教育体制等について明らかにした。全国で過疎化・高齢化が進み周産期医療体制の維持が困難となってきている。本研究はその対応を考えていく上で重要であり、社会的意義が大きいものである。

研究成果の概要（英文）：This study examined the enhancement of maternal and child health services during the perinatal period. A support system was proposed for pregnant and nursing mothers in mountainous regions with declining birth rates and populations. Interviews were conducted with the medical personnel in charge of maternal and child healthcare and emergency medical care. Additionally, health education for expectant and nursing mothers in the target areas was provided and evaluated. A survey was also conducted to assess high school students' awareness and knowledge of marriage and pregnancy. The results indicated that the promotion of perinatal care in the next generation requires that young people and expectant mothers residing in the target area understand the status of perinatal care in the community, active self-care support and continuous care for expectant mothers, care for pregnant women and mothers, and recruitment of professionals.

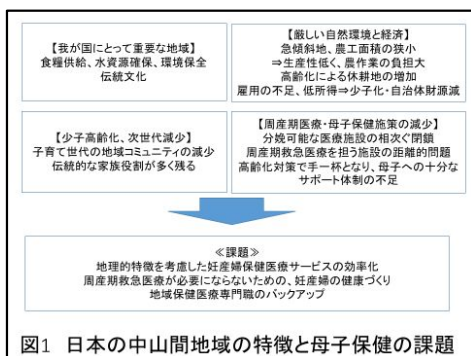
研究分野：母性看護学

キーワード：中山間地域 母子保健 健康支援 次世代育成

## 1. 研究開始当初の背景

1) 中山間地域の地理的条件と周産期医療体制の過疎化：中山間地域とは山間農業地域と中間農業地域である市町村域と山村振興法等の適用を受ける地域を指す。河川の上流域で傾斜地が多く、農業生産活動、国土の保全、水資源涵養等の公益的機能の発揮を通じ、全国民の生活基盤を守る重要な役割を持つ<sup>1)</sup>。農作物生産額、農家数、農地面積等では全国の約4割を占め、我が国の食料供給力を確保する上で重要な役割を有する。しかしながら生産性の低さと過疎化が重なり、地域が有する保健医療の資源は高齢者の急増による対策に偏りがちで、妊娠・分娩・子育てをする世代への支援は極めて少ないのが現状であった。このような状況で分娩施設の相次ぐ閉鎖、産婦人科医の高齢化など、周産期救急医療体制の不備が問題となっていた<sup>2)</sup>。(図1)

2) 地域の周産期医療体制の危機的状況と地域の特性を生かした母子保健の支援の必要性：周産期救急医療は救急医療施設に到着するまでの距離が救命率を左右することが明らかにされているが、周産期の健康管理の場が乏しい上に急傾斜地のため救急車の対応が困難な場合も多い。また研究開始当初である2015年8月では全国38か所に46機のドクターヘリが配備されている状況であった<sup>3)</sup>。周産期医療施設の確保は地域の自治体や医師会が対応を進めているが、全国的な周産期医療の専門職の不足もあり、必要な確保が進められない現状であった。また地域や家族の伝統的な役割も未だ残り、女性は家事労働の負担、子育て仲間や嫁仲間などのネットワークが残るが、同世代のコミュニティは急速に減少しつつある。中山間地域の周産期医療対策は、これまでの単なる農村部という枠組みで考えるのではなく、独自の支援が必要である。これまで中山間地域に暮らす母子の支援に関する研究はほとんど見当たらず、危機的な状況を解決するための方策は急務であった。



## 2. 研究の目的

中山間地域に居住する妊産婦ならびに母子の周産期医療と健康の課題を明らかにし、地域の実情に合わせた保健管理の強化を目的とした健康支援サービスを検討する。

## 3. 研究の方法

### 1) 中山間地域の母子保健に関する国内外の文献レビュー

研究期間は平成28年10月から平成29年2月。平成12年1月から平成28年9月までの期間を対象とし、国内文献は医学中央雑誌とハンドサーチを用い検索、精査し12件の文献を対象とし分析した。国外文献はPub-MedならびにCHINAHLを用い検索、精査し9件の文献を検討した。

### 2) 中山間地域の周産期医療に携わる医療専門職へのインタビュー調査

研究期間は平成29年3月～9月。対象者は首都圏近郊で、分娩施設が5年間で4施設から1施設に減少した中山間地域1地域の専門職4グループ。内訳は(1)医療圏においてドクターヘリによる救急周産期搬送を体験した消防署員(救急救命士)3名(対象地域出身・在住)、(2)医療圏保健所の母子保健担当者(保健師)2名(対象地域出身・在住ではない)、(3)対象地域の1市保健センターの母子保健担当者(保健師)3名(地域出身・在住)、(4)対象地域で産後ケア事業を実施している助産師3名(1名は対象地域出身・在住、1名は出身・他地域在住)。研究方法は、グループにフォーカス・グループインタビューを実施し、逐語録から「周産期医療の過疎と救急医療への対応」「地域の母子ケア」「地域の妊産婦、家族、住民に必要な教育」に焦点を当て分析した。

### 3) 中山間地域在住の高校生の将来像とプレコンセプショナルケアに対する意識調査

研究期間は令和元年6月。対象者は関東地域の中山間地域にある1高校に在籍する生徒1～3年生。自記式質問紙調査を実施した。調査項目は生活習慣に関する7項目(4段階評価)、将来の生活や家族についての10項目、精神的回復力尺度<sup>4)</sup>(4段階に修正し使用)、妊娠や出産に関する知識ならびに意識に関する15項目である。各項目間は相関および2群間、3群間の差について検討した。レジリエンス尺度については項目分析、主因子法による探索的因子分析を実施した。生活習慣と最も関連性があると推測された「肯定的な未来志向」に注目し、基本的属性と生活習慣、将来の生活や属性に関してパス解析を行いモデルの適合度を検討した。

### 4) 中山間地域における妊産婦ならびに産後の母親を対象とした健康支援の介入と評価

研究期間は令和元年2～6月。対象者は関東の中山間地域であるA町に在住する子育て世代の家族と妊産婦と産後の女性とした。これまでの研究で得た知見とA町子育て支援課のニーズをふまえて、(1)幼児とその保護者対象の子育て世代への食育セミナー (2)妊産婦の健康・栄養教室の実施と評価ならびにセルフケア行動調査、を企画実施し受講生による評価を検討した。

### 5) 都市部に在住妊産婦のセルフケア行動と健康管理の意識調査

研究期間は令和元年9月～12月（データ収集期間は令和4年10月まで）。対象者は4)のA町と同じ県の都市部B市の産婦人科専門病院1施設に、妊婦健診に通う妊婦100名。研究方法は自記式質問紙調査を実施した。調査項目は属性、生活状況、妊娠期の生活行動や出産準備状況（日本語版PSEQ下位尺度を含む）<sup>5)</sup>、エジンバラ産後うつ病質問紙（EPDS）、食物摂取頻度調査（B-DHQ）、Pregnancy Behavior Scale<sup>6)</sup>等であった。

#### 4. 研究成果

##### 1) 中山間地域の母子保健に関する国内外の文献レビュー結果

中山間地域の母子保健統計上の課題には少子化・過疎化による医療施設の減少と限局化があげられた。周産期医療の集約化に関する報告では、集約化により周産期の母子保健統計は全国と差はなかったが、医師や看護職の適正配置や助産師の技術向上、医学的管理技術の向上、専門職の連携と協働の課題があげられた。一方で周産期医療の過疎化に対応する自覚がない妊産婦の存在が周産期救急医療の問題点であった。海外文献では対象妊産婦が有する周産期救急医療を尊重したケア、心的支援、開かれたコミュニケーション、医療専門職の地域文化的理解が必要であることがあげられた。

中山間地域の妊産婦の母子保健向上のために必要な取組としては、専門職の技能と連携体制の向上と、地理的特徴をふまえた妊産婦への教育と支援方法を検討することが必要であることが示唆された。

##### 2) 中山間地域の周産期医療に携わる医療専門職へのインタビュー調査結果

（【 】はカテゴリー）

【周産期医療施設の過疎状況と救急医療への対応】では、地域への最善の医療を提供する周産期医療施設の対応を評価、信頼していた。一方で周産期救急対応を近隣地域の医療機関に依存している事、地域の周産期医療の危機的状況の予期的対応の必要性を妊産婦および家族が自覚する必要性があげられた。また専門職同士の共通理解や協働への課題と慢性的な不足が示された。

【地域の母子ケアの特性】では、地域の保健師が従来行ってきた地域の特徴ある母子保健事業を評価し継続すべきだとする一方、地域のフォローアップ対象者の増加や全戸訪問の確保など、母子保健サービスを維持することの難しさ、サービスを行う専門職人材の不足があげられた。一方、社会的ハイリスク妊産婦・母子のフォローの難しさ、他地域から結婚で転入・出産した母親や一人で育児を行う母親の増加が増えており、都市部と同様の支援も必要である。

【地域の妊産婦、家族、住民に必要な教育】では、母子健康手帳の活用の仕方をもっと教える必要や、周産期救急への対応ができない事への、地域住民の理解や教育が必要である。

##### 3) 中山間地域在住の高校生の将来像とプレコンセプショナルケアに対する意識調査

生活習慣では睡眠時間、スマートフォン操作時間、運動習慣に課題を有する状況であった。将来の生活設計において希望する居住場所に現在の地域を望むとの回答は、20代前半は11.1%であるが20代後半（29.8%）、30代（24.9%）と推移していた。将来の結婚希望は68.6%であり男女差が認められた。精神的回復力尺度では下位尺度の「新奇性追求」「感情調整」「肯定的な未来志向」が確認され、「肯定的な未来志向」と生活習慣は結婚と子ども希望、性別、家族が間接的に影響を与えていた

（GFI=.954, AGFI=.921, CFI=.914, RMSEA=.062）（図2）。生活習慣には未来志向や将来の家族設計との関連があり、生活習慣の教育には将来の展望を踏まえた未来志向への教育の必要性が考えられた。

妊娠中の健康管理や妊娠出産に関する知識の設問では、既知について重要と考える項目は「妊娠中や産後はタバコを吸ってはいけない」「妊娠中や産後はお酒を飲んではいけない」「妊婦の家族のタバコを

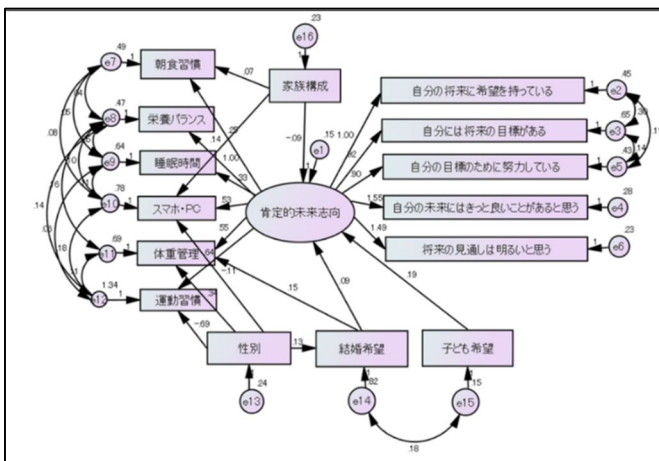


図2 対象の高校生の未来志向と生活習慣の関連モデル

表1 妊娠中の健康管理や妊娠出産に関する知識と意識

| 妊娠中の健康管理や出産にまつわる知識            | 知っているが重要と思う | 知らなかったが重要と思う | 重要と思う合計 | 知っていたが重要ではない |
|-------------------------------|-------------|--------------|---------|--------------|
| 妊娠中や産後はタバコを吸ってはいけない           | 554         | 66           | 620     | 114          |
| 妊娠中や産後はお酒を飲んではいけない            | 526         | 66           | 592     | 114          |
| 妊婦の家族もタバコを吸わないようにする           | 501         | 103          | 604     | 113          |
| 妊娠が分かったら、なるべく早く産婦人科で診察を受ける    | 430         | 150          | 580     | 136          |
| 生まれた赤ちゃんは定期的に健診や予防接種をする       | 386         | 179          | 565     | 113          |
| 役場に行き、母子健康手帳をもらう              | 409         | 121          | 530     | 157          |
| 食事に注意し、野菜や魚、乳製品などを積極的に摂る      | 358         | 183          | 541     | 119          |
| 妊娠中、1～4週間ごとに（定期的に）健診を受ける      | 243         | 339          | 582     | 73           |
| 食事は塩分を控える                     | 241         | 244          | 485     | 102          |
| 妊娠中や産後は気分が落ち込み、つらいことがある       | 197         | 129          | 326     | 241          |
| 女性の妊娠する能力は30歳を過ぎたころから少しずつ低下する | 161         | 149          | 310     | 217          |
| 妊娠やお産の事を勉強するため、母親学級に参加する      | 85          | 345          | 430     | 49           |
| 妊娠中は早寝早起きをする                  | 106         | 273          | 379     | 66           |
| 現在このA地域ではお産ができる産婦人科の施設は1施設である | 81          | 201          | 282     | 126          |

(n=748)



吸わないようにする」であった。知らなかったが重要だと思ふと考える項目は「妊娠やお産の事を勉強するため母親学級に参加する」「妊娠中1~4週間ごとに(定期的に)健診を受ける」であった。以上より地域の周産期医療の事情をふまえた、プレコンセプショナルケアの視点を加味した健康教育と、将来像に合わせたライフスタイルの支援は地域を離れる前の若者、特に対象地域の高校生に教育をすることが望ましいことが明らかとなった(表1)。

#### 4) 中山間地域における妊婦ならびに産後の母親を対象とした健康支援の実践と評価

今回対象としたA町は首都圏に近い中山間地域である。古くから石灰等建築資材の産地であり、都心の近代建築を支えてきた。人口は約8千人であり、年少人口は10.5%、高齢化率は34.0%と少子高齢化が進む。調査時点の年間出生数は10年前の2/3、約45人である。周産期医療施設は自治体が定めた医療圏内で1施設であり、周産期の救急医療は遠方まで搬送しなければならぬ状況にある。母子の衛生指標である母子保健統計は首都圏と差はなく、在住の助産師による子育て相談やSNSなどを用いた産婦人科相談・小児科相談サービスなども実施している。実施した内容は以下の通りである。

##### (1) 子育て世代への食育セミナー 幼児とその保護者対象

幼児とその親への食育、また地域の親子交流会を行うセミナーを計画した。特に幼児が調理に参加できる事、季節感があること、地域の食材を用いる事、として決定した。時期についても担当課の希望であり、対応可能であった研究者が主に実施した。内容は季節の食材、特に地場産の野菜を用いた調理体験と、子どもの栄養に関する講義を実施した。終了後の育児相談では、育児についての質問や食事についての質問が寄せられた。地域の子育て支援については概ね満足との回答であったが、地域に同年代の子どもが少なく、こどもの同年代の家族との講習ができないことによる不安が意見としてあげられた。

##### (2) 妊産婦の健康・栄養教室の実施と評価ならびにセルフケア行動調査

対象者は妊婦3名、授乳婦8名であった。事前に助産師の子育て相談や子育て中の女性医師に地域の母子に必要な支援についてインタビューを行い、地域に求められている母子の健康活動について検討した上で、子育て支援課と協議を行い健康教育を実施した。妊娠中及び産後の健康とセルフケアについての講座は母性看護学教員が、妊娠中及び産後の栄養についての講座は栄養学教員と栄養学生が担当した。事前に5日間の食事調査を実施した。講座終了後はアンケートにより講座の評価を実施した。講座については体験を重視し、前半は母性看護学教員による「妊娠中と産後の健康講座」、後半は栄養学教員と管理栄養士養成課程の学生による「妊娠中と産後に必要な栄養の料理の講話」を実施した。前半は疲れをとる日常生活の工夫についての話と、疲労回復に役立つ東洋医学として経穴(ツボ)の基礎知識やマッサージについて説明し、参加者同士でハンドマッサージを実施した。後半は食生活の事例を見ながら栄養の改善方法について食事バランスガイドを使いながら食事のチェック方法について説明した。その後栄養学生が考案した、妊娠期と産後に取り入れやすい料理5品を紹介し、栄養学部学生(4年生)が作成した料理を実際に試食した。講座終了後は教員への質問やフリートーク、食事調査の補完聞き取りを行い終了した。離乳食についての時間が十分に取れず、資料を作成し簡単に説明した。食事調査については栄養解析を行い、結果は子育て支援課を通じて希望する対象者に届けられた。

実施の評価としては、(1)子育て世代の食育セミナーでは参加者全家族が「とてもよかった」と回答し、時期や時間についてもよい評価であった。自由記載では子どもが熱心に調理に参加できた、家庭でできない事ができた、食の悩みを相談できた、であった。

##### (2) 講座の評価は9名より回答があった。講座全体、各講座とも8名が「とてもよかった」であり、1名が「やや良かった」であった。

自由記述ではマッサージや経穴の体験、食事の講義での食事や栄養のバランスのとりの方があげられ、試食した料理について実践したいとの記述がみられた。

離乳食についても具体的で実践的な講座内容の希望記述がみられた。講座終了後のフリートークでは複数の参加者よりこのような体験型の講座が少ないこと、自宅周辺に同じような妊婦や乳児が極めて少ないことを話していた。今後希望する支援策については、保健師の一貫した支援・健康講座の増設・体操、新米ママとの交流会がそれぞれ4名、食事指導やクッキング教室が3名、保健師の家庭訪問が2名であったが、インターネットを用いた遠隔の指導等は希望がなかった。

栄養調査については表2のようにエネルギー摂取量の不足、妊婦の鉄分不足、産後の母親の鉄分・カルシウムなどの不足、塩分の過剰傾向がみられた(表2)。日本版EPDSの下位尺度の調査では、『非常にそう思う』との回答は「妊婦健診を受けている(いた)」(11人,100%)「ほとんど毎日3食をきちんと食べている」「たばこの害を避けるようにしている」(ともに9人,81.8%)

表2 参加者の栄養調査結果

|                     |        | 総量              |                 | 1000kcal当たり     |                 | P値*   |
|---------------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-------|
|                     |        | 妊婦              | 授乳婦             | 妊婦              | 授乳婦             |       |
| エネルギー               | (kcal) | 1814±327        | 1957±426        | -               | -               | 0.194 |
| たんぱく質エネルギー比         | (%)    | 14.9(14.1-15.4) | 13.5(12.8-14.7) | -               | -               | 0.017 |
| 脂質エネルギー比            | (%)    | 35.7(31.5-36.7) | 30.4(26.0-35.3) | -               | -               | 0.219 |
| 炭水化物エネルギー比          | (%)    | 51.4±7.3        | 54.1±7.1        | -               | -               | 0.228 |
| たんぱく質               | (g)    | 68.0±12.7       | 67.5±15.9       | 37.1(35.4-38.4) | 33.8(32.1-36.8) | 0.017 |
| 脂質                  | (g)    | 66.3±19.8       | 67.1±22.5       | 39.6(35.0-40.8) | 33.8(28.7-39.2) | 0.219 |
| 炭水化物                | (g)    | 230.9±39.7      | 263.6±61.7      | 128.5±18.3      | 135.3±17.8      | 0.228 |
| 食物繊維総量              | (g)    | 15.6±6.6        | 12.9±3.9        | 8.5±3.0         | 6.6±1.3         | 0.024 |
| カルシウム               | (mg)   | 650±280         | 490±227         | 354±136         | 247±104         | 0.012 |
| 鉄                   | (mg)   | 6.7(6.2-9.6)    | 7.5(6.0-9.2)    | 4.1(3.6-5.3)    | 3.8(3.2-4.6)    | 0.257 |
| ビタミンA               | (μg)   | 459(321-583)    | 426(352-605)    | 235(198-300)    | 232(172-303)    | 0.597 |
| ビタミンD               | (μg)   | 2.3(1.5-3.1)    | 3.3(1.9-7.4)    | 1.2(0.8-1.9)    | 1.6(0.9-3.7)    | 0.416 |
| ビタミンK               | (μg)   | 162(117-234)    | 163(119-283)    | 82(68-130)      | 76(61-146)      | 0.597 |
| ビタミンB <sub>1</sub>  | (mg)   | 1.05(0.80-1.17) | 0.99(0.71-1.27) | 0.50(0.45-0.72) | 0.50(0.37-0.66) | 0.558 |
| ビタミンB <sub>2</sub>  | (mg)   | 1.26(0.93-1.64) | 1.13(0.81-1.40) | 0.72(0.62-0.84) | 0.57(0.42-0.64) | 0.011 |
| ビタミンB <sub>6</sub>  | (mg)   | 1.13(0.91-1.43) | 1.11(0.85-1.48) | 0.61(0.53-0.76) | 0.59(0.46-0.71) | 0.317 |
| ビタミンB <sub>12</sub> | (μg)   | 5.2(2.4-8.1)    | 3.7(1.6-6.81)   | 3.5(1.2-4.2)    | 1.5(0.9-3.1)    | 0.085 |
| 葉酸                  | (μg)   | 359(281-423)    | 283(225-408)    | 203(150-260)    | 150(115-180)    | 0.121 |
| ビタミンC               | (mg)   | 112(73-180)     | 100(72-148)     | 73(47-84)       | 52(36-79)       | 0.135 |
| 食塩相当量               | (g)    | 9.4±2.4         | 9.3±2.6         | 5.3(4.1-6.0)    | 4.6(4.1-5.4)    | 0.395 |

\* 妊婦と授乳婦のエネルギー摂取量エネルギー-産生栄養素バランス、および1000kcalあたりの栄養素等摂取量の比較  
データは平均値±標準偏差、Welchのt検定、  
データは中央値(25-75パーセンタイル)、Mann-WhitneyのU検定

であった(表3)。

5) 都市部在住妊婦のセルフケア行動と健康管理の意識調査

対象者は81名であった。平均妊娠週数は28.1±7.0週であった。平均エネルギー摂取量は、妊婦1480±431kcal、脂質エネルギー比率が30%を超えていた者は51名(54.3%)であった。1日当りの肉類摂取量は70.5±3035.2g、魚介類摂取量は各44.2±30.2gであった。野菜類を1日350g以上摂取の者は11名(12.9%)であった。妊娠週数、年齢階級、生活状況では摂取量の差がなかった。また世帯収入の低い群で豆類、魚類、野菜類の少ない傾向、穀類、油脂類、肉類摂取量が多い傾向がみられた。EPDS合計点が9点以上であった者が17名(17.9%)でありカルシウムと乳類摂取量に有意差が認められた。日本版EPDSの下位尺度の調査において『非常にそう思う』との回答は「妊婦健診を受けている」(59人, 93.8%)「自分が妊娠何週か、常にわかっている」(59人, 72.8%)「たばこの害を避けるようにしている」(55人, 67.9%)と、研究4)のA町の対象者とほぼ同じ回答の状況であった(表3)。

Pregnancy Behavior Scaleの因子分析の結果、生活行動として「緊急対応」「妊娠を考慮した日常生活」「医療と連帯した生活行動」の3因子が、妊娠のリスク認知では「病院への依存」「楽観視」の2因子が抽出された。これらの因子の係数は0.7~0.86であった。生活行動3因子、妊娠リスク2因子はともに因子同士の相関が認められたが(r=0.318~0.467)、生活行動因子である「緊急対応」と妊娠リスク2因子との相関はなかった。年齢、妊娠週数、出産回数等の属性やEPDS、食物・栄養素摂取状況との相関も認められなかった。以上より都市部の妊娠期の女性においても、妊娠後半期の時期に応じたバランスの良い食事の継続的な支援、また妊娠期の精神状態と合わせた食事の支援の必要性が示唆された。世帯収入の差については今後対象者の検討が必要であるが、経済状態に応じた食事の支援の必要性を考えると考えられた。また妊娠期の生活行動やリスク認知と、妊婦の属性、不安、食生活とは関連性が低かった。妊婦自身が環境に応じたリスクを自覚し、日常生活に生かすことが周産期の異常を防ぐという視点を有した健康教育が必要である事が示唆された。

表3 日本版PSEQ 中山間地域A町の対象者と都市部B施設の妊婦調査結果

| 質問項目                                    | 中山間部調査(n=11) |            |               |               |              | 都市部調査(n=81) |            |               |               |              |
|---|--------------|------------|---------------|---------------|--------------|-------------|------------|---------------|---------------|--------------|
|   | 非常に<br>そう思う  | やや<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | 全くそう<br>思わない | 非常に<br>そう思う | やや<br>そう思う | どちらとも<br>いえない | あまりそう<br>思わない | 全くそう<br>思わない |
| 自分が妊娠何週か、常にわかっている                       | 5 (45.5)     | 6 (54.5)   | 0 (0.0)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 59 (72.8)   | 17 (21.0)  | 4 (4.9)       | 1 (1.2)       | 0 0.0        |
| 妊婦健診を受けている                              | 11 (100.0)   | 0 (0.0)    | 0 (0.0)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 76 (93.8)   | 5 (6.2)    | 0 0.0         | 0 0.0         | 0 0.0        |
| 母親学級を受けている                              | 4 (36.4)     | 3 (27.3)   | 1 (9.1)       | 1 (9.1)       | 2 (18.2)     | 53 (65.4)   | 7 (8.6)    | 12 (14.8)     | 4 (4.9)       | 4 (4.9)      |
| 安静や適度な運動を行っている                          | 4 (36.4)     | 3 (27.3)   | 3 (27.3)      | 1 (9.1)       | 0 (0.0)      | 34 (42.0)   | 31 (38.3)  | 14 (17.3)     | 2 (2.5)       | 0 0.0        |
| 妊娠・産後に関する疑問や心配などを自分から医師や助産師に相談している      | 5 (45.5)     | 6 (54.5)   | 0 (0.0)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 32 (39.5)   | 40 (49.4)  | 9 (11.1)      | 0 0.0         | 0 0.0        |
| 妊娠・産後の体調に関する本や雑誌をよく読んでいる                | 3 (27.3)     | 4 (36.4)   | 3 (27.3)      | 1 (9.1)       | 0 (0.0)      | 11 (13.6)   | 34 (42.0)  | 17 (21.0)     | 14 (17.3)     | 5 (6.2)      |
| インターネットで妊娠や出産に関することを積極的に調べている           | 5 (45.5)     | 5 (45.5)   | 1 (9.1)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 35 (43.2)   | 26 (32.1)  | 13 (16.0)     | 7 (8.6)       | 0 0.0        |
| 出血、強いお腹の張り、赤ちゃんが動かない時などの平日の対処法を知っている    | 2 (18.2)     | 8 (72.7)   | 1 (9.1)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 18 (22.2)   | 40 (49.4)  | 15 (18.5)     | 5 (6.2)       | 3 (3.7)      |
| 出血、強いお腹の張り、赤ちゃんが動かない時などの休日、夜間の対処法を知っている | 1 (9.1)      | 5 (45.5)   | 4 (36.4)      | 1 (9.1)       | 0 (0.0)      | 12 (14.8)   | 37 (45.7)  | 21 (25.9)     | 7 (8.6)       | 4 (4.9)      |
| 妊娠高血圧症候群など、妊娠合併症の症状について知っている            | 2 (18.2)     | 3 (27.3)   | 4 (36.4)      | 2 (18.2)      | 0 (0.0)      | 8 (9.9)     | 24 (29.6)  | 20 (24.7)     | 24 (29.6)     | 5 (6.2)      |
| 自分の適正な体重増加量(妊娠中、増えよ体重)を知っている            | 7 (63.6)     | 3 (27.3)   | 1 (9.1)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 21 (25.9)   | 42 (51.9)  | 13 (16.0)     | 4 (4.9)       | 1 (1.2)      |
| ほとんど毎日体重を測っている                          | 7 (63.6)     | 2 (18.2)   | 0 (0.0)       | 2 (18.2)      | 0 (0.0)      | 28 (34.6)   | 13 (16.0)  | 8 (9.9)       | 15 (18.5)     | 17 (21.0)    |
| ほとんど毎日3食きちんと食べている                       | 9 (81.8)     | 0 (0.0)    | 2 (18.2)      | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 45 (55.6)   | 19 (23.5)  | 11 (13.6)     | 4 (4.9)       | 2 (2.5)      |
| 栄養のバランスを考えて食事を摂るようにしている                 | 2 (18.2)     | 6 (54.5)   | 2 (18.2)      | 1 (9.1)       | 0 (0.0)      | 17 (21.0)   | 34 (42.0)  | 19 (23.5)     | 10 (12.3)     | 1 (1.2)      |
| ほとんど毎日間食をしている(チョコ、スナック菓子、和・洋菓子など)       | 3 (27.3)     | 4 (36.4)   | 3 (27.3)      | 1 (9.1)       | 0 (0.0)      | 12 (14.8)   | 25 (30.9)  | 22 (27.2)     | 17 (21.0)     | 5 (6.2)      |
| たばこの煙を避けるようにしている(自分の禁煙も含む)              | 9 (81.8)     | 1 (9.1)    | 1 (9.1)       | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 55 (67.9)   | 21 (25.9)  | 4 (4.9)       | 1 (1.2)       | 0 0.0        |
| 人ごみに出ないように心掛けている                        | 0 (0.0)      | 2 (18.2)   | 6 (54.5)      | 2 (18.2)      | 1 (9.1)      | 10 (12.3)   | 21 (25.9)  | 27 (33.3)     | 21 (25.9)     | 2 (2.5)      |
| 夜更かしをせず、十分な睡眠をとっている                     | 5 (45.5)     | 4 (36.4)   | 2 (18.2)      | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 20 (24.7)   | 27 (33.3)  | 24 (29.6)     | 8 (9.9)       | 2 (2.5)      |
| 心身の疲労を避け、リラックスした生活を心がけている               | 3 (27.3)     | 4 (36.4)   | 4 (36.4)      | 0 (0.0)       | 0 (0.0)      | 18 (22.2)   | 37 (45.7)  | 21 (25.9)     | 5 (6.2)       | 0 0.0        |
| 自分の健康について毎日チェックしている                     | 0 (0.0)      | 7 (63.6)   | 3 (27.3)      | 1 (9.1)       | 0 (0.0)      | 14 (17.3)   | 31 (38.3)  | 27 (33.3)     | 5 (6.2)       | 4 (4.9)      |

人数(%)

<文献>

- 1) 埼玉県. 埼玉県山村振興基本方針(平成17年度~平成26年度). 2005: 1-13.
- 2) 関明彦. 岡山県の過疎地域における産科施設の動向と課題. 産婦中四会誌. 2002: 50(2): 381-388.
- 3) 篠田伸夫. ドクターヘリのこれまでの歩みと課題. 医学のあゆみ. 2017: 263: 681-687.
- 4) 小塩真司, 中谷素之, 金子一史, 長峰伸治. ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性 精神的回復力尺度の作成. カウンセリング研究. 2002: 35: 57-65 小塩真司.
- 5) 岡山久代, 高橋真理. 日本語版 Prenatal Self-Evaluation Questionnaire の開発, 日本女性心身医学会雑誌, 2009; 7(1): 55-63.
- 6) 佐藤菜保子, 小澤信義, 金澤素, 福土審. 肥満妊婦の妊娠リスク認知と行動に関する研究. Jpm J Psychosom Med, 2009; 49: 997-1006.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>坂本めぐみ                        | 4. 巻<br>14          |
| 2. 論文標題<br>妊娠中の栄養指導と体重管理 ～食生活支援のポイント～  | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>臨床助産ケア                       | 6. 最初と最後の頁<br>26-33 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>坂本めぐみ                        | 4. 巻<br>14（5）       |
| 2. 論文標題<br>妊娠中の栄養指導と体重管理               | 5. 発行年<br>2022年     |
| 3. 雑誌名<br>臨床助産ケア                       | 6. 最初と最後の頁<br>26-33 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし          | 査読の有無<br>無          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>坂本めぐみ、松永洋子   | 4. 巻<br>51          |
| 2. 論文標題<br>妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に関する現状と課題 - 子育て支援包括支援センターや産前産後サポート事業等の文献検討 | 5. 発行年<br>2021年     |
| 3. 雑誌名<br>第51回日本看護学会論文集 ヘルスプロモ ション・精神看護・在宅看護                               | 6. 最初と最後の頁<br>96-99 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし  | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                                     | 国際共著<br>-           |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>坂本めぐみ、松永洋子                        | 4. 巻<br>50          |
| 2. 論文標題<br>地域包括支援センター利用者の研究における女性性に関する文献の検討 | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>第50回日本看護学会論文集 ヘルスプロモーション          | 6. 最初と最後の頁<br>23-26 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし               | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難      | 国際共著<br>-           |

|  |                     |
|--|---------------------|
| 1. 著者名<br>松永洋子、坂本めぐみ、増満昌江              | 4. 巻<br>50          |
| 2. 論文標題<br>行政保健師の地域診断に関わる過去5年間の文献検討    | 5. 発行年<br>2020年     |
| 3. 雑誌名<br>第50回日本看護学会 ヘルスプロモーション        | 6. 最初と最後の頁<br>35-38 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-           |

|  |                   |
|--|-------------------|
| 1. 著者名<br>坂本めぐみ                        | 4. 巻<br>5         |
| 2. 論文標題<br>家庭・地域で子どもの良いところ探しをしよう       | 5. 発行年<br>2017年   |
| 3. 雑誌名<br>埼玉教育                         | 6. 最初と最後の頁<br>4-5 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし         | 査読の有無<br>無        |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>-         |

|   |                     |
|---|---------------------|
| 1. 著者名<br>恩田理恵、坂本めぐみ                                    | 4. 巻<br>47          |
| 2. 論文標題<br>中山間地域在住の妊婦の妊娠から産褥に関する意識、食知識、食態度、食環境と栄養素等摂取状況 | 5. 発行年<br>2016年     |
| 3. 雑誌名<br>女子栄養大学紀要                                      | 6. 最初と最後の頁<br>47-56 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子)<br>なし                          | 査読の有無<br>有          |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難                  | 国際共著<br>-           |

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 0件 / うち国際学会 7件)

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>恩田理恵、中嶋千夏、高取知子、矢澤和恵、元島洋子                   |
| 2. 発表標題<br>ハイリスク妊婦における母体体重増加量、栄養素等摂取状況と児の出生体重、母乳成分の検討 |
| 3. 学会等名<br>第64回日本栄養改善学会学術集会                           |
| 4. 発表年<br>2017年                                       |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>小野寺なつ美、中嶋知夏、堀口勇希、倉持佳菜、内田美恵子、高取知子、恩田理恵 |
| 2. 発表標題<br>食事摂取状況調査における妊産婦の栄養摂取状況と母乳成分の関係        |
| 3. 学会等名<br>第60回日本母性衛生学会総会                        |
| 4. 発表年<br>2019年                                  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Megumi Sakamoto, Takayo Yamada, Ruriko Kyuuji, Tomoko Yamagishi   |
| 2. 発表標題<br>Correlation between dietary intake and psychosocial childbirth readiness among wome in the secomnd trimester of pregnancy |
| 3. 学会等名<br>24th East Asian forum of nursing scholars comference (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2021年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、松永洋子                                   |
| 2. 発表標題<br>妊娠後期の妊婦の生活背景とうつ傾向の現状 日本語版エジンバラ産後うつ病自己評価票を用いて |
| 3. 学会等名<br>第52回日本看護学会学術集会                               |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ                            |
| 2. 発表標題<br>中山間地域に在住・在学する高校生の生活習慣と未来志向の関連の検討 |
| 3. 学会等名<br>第39回日本思春期学会総会・学術集会               |
| 4. 発表年<br>2020年                             |



|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>恩田理恵、坂本めぐみ                         |
| 2. 発表標題<br>中山間地域在住の妊婦・授乳婦の食物・栄養素等摂取状況と栄養教育の課題 |
| 3. 学会等名<br>第67回日本栄養改善学会学術総会                   |
| 4. 発表年<br>2020年                               |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ                                   |
| 2. 発表標題<br>都市部に居住する生活行動の検討 第1報 食物・栄養素摂取状況と生活行動の検討- |
| 3. 学会等名<br>第61回 日本母性衛生学会学術集会                       |
| 4. 発表年<br>2020年                                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ   |
| 2. 発表標題<br>都市部に居住する妊婦の生活行動の検討-第2報 妊娠後期のリスク認知と生活行動の関連の検討- |
| 3. 学会等名<br>第61回 日本母性衛生学会学術集会                             |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、松永洋子  |
| 2. 発表標題<br>子育て支援包括支援センターや産前産後サポート事業等を中心とした、妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援に関する研究動向 |
| 3. 学会等名<br>第51回 日本看護学会 ヘルスプロモーション 学術集会                                   |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、山田貴代、久司留理子、山岸智子  |
| 2. 発表標題<br>Correlation between dietary intake and psychosocial childbirth readiness among women in the second trimester of pregnancy. |
| 3. 学会等名<br>24th East Asian forum of nursing scholars conference (国際学会)  |
| 4. 発表年<br>2021年   |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Megumi Sakamoto, Tomoko Yamagishi, Miyuki Kanemune  |
| 2. 発表標題<br>Awareness and perception of preconception care among high school students in hilly and mountainous regions in Japan |
| 3. 学会等名<br>The 6th International nursing research conference of world academy of nursing science (国際学会)                        |
| 4. 発表年<br>2020年  |

|   |
|---|
| 1. 発表者名<br>Tomoko Yamagishi, Megumi Sakamoto  |
| 2. 発表標題<br>Relationship between resilience and lifestyle of high school students                        |
| 3. 学会等名<br>The 6th International nursing research conference of world academy of nursing science (国際学会) |
| 4. 発表年<br>2020年   |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>松永洋子、坂本めぐみ、増満昌江          |
| 2. 発表標題<br>行政保健師の地域診断に関わる過去5年間の文献検討 |
| 3. 学会等名<br>第50回日本看護学会 ヘルスプロモーション    |
| 4. 発表年<br>2019年                     |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、松永洋子                    |
| 2. 発表標題<br>地域包括支援センター利用者における女性性に関する文献の検討 |
| 3. 学会等名<br>第50回日本看護学会 ヘルスプロモーション         |
| 4. 発表年<br>2019年                          |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>松永洋子、坂本めぐみ、杉澤秀博               |
| 2. 発表標題<br>地域包括支援センターの保健師・看護師の地域診断の実施の比較 |
| 3. 学会等名<br>第78回日本公衆衛生学会総会                |
| 4. 発表年<br>2019年                          |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、兼宗美幸               |
| 2. 発表標題<br>中山間地域で助産師が行う育児支援活動の現状と課題 |
| 3. 学会等名<br>第20回 日本母性看護学会学術集会        |
| 4. 発表年<br>2018年                     |

|                                    |
|------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、山岸智子              |
| 2. 発表標題<br>母性看護学教育における妊産婦への栄養指導の源流 |
| 3. 学会等名<br>日本看護学教育学会第28回学術集会       |
| 4. 発表年<br>2018年                    |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Megumi, SAKAMOTO, Miyuki, KANEMUNE  |
| 2. 発表標題<br>Maternal and child health issues and necessary perinatal care in Hilly and mountainous regions in Japan -Interviews with nurses and other professionals |
| 3. 学会等名<br>The 5th China Japan Korea Nursing Conference (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2018年  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、兼宗美幸、西岡笑子、三上由美子、古谷健一    |
| 2. 発表標題<br>中山間地域における母子保健の現状と必要とする専門職への支援 |
| 3. 学会等名<br>第58回日本母性衛生学会                  |
| 4. 発表年<br>2017年                          |

|                                       |
|---------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>西岡笑子、坂本めぐみ、三上由美子、今野友美、古谷健一 |
| 2. 発表標題<br>本邦における女性の健康プログラムについての研究動向  |
| 3. 学会等名<br>第58回日本母性衛生学会               |
| 4. 発表年<br>2017年                       |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、西岡笑子、三上由美子            |
| 2. 発表標題<br>過疎・中山間地域における周産期医療・母子保健の文献検討 |
| 3. 学会等名<br>第81回 日本民族衛生学会総会             |
| 4. 発表年<br>2016年                        |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Megumi Sakamoto, Eniko Nishioka, Yumiko Mikami, Tomoko Yamagishi, Miyuki Kanemune       |
| 2. 発表標題<br>Caring for maternal women in rural and hilly and mountainous areas: A literature Review |
| 3. 学会等名<br>The 3rd International Society of Caring and Peace Conference (国際学会)                     |
| 4. 発表年<br>2017年  |

|                                     |
|-------------------------------------|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ、西岡笑子、三上由美子         |
| 2. 発表標題<br>子育て支援から見た、近年の離乳食に関する文献検討 |
| 3. 学会等名<br>第25回 日本健康教育学会学術大会        |
| 4. 発表年<br>2016年                     |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>坂本めぐみ                                 |
| 2. 発表標題<br>妊産婦の栄養素および食品摂取の現状 -妊娠期の食・栄養教育の方向性の検討- |
| 3. 学会等名<br>第57回 日本母性衛生学会学術集会                     |
| 4. 発表年<br>2016年                                  |

|  |
|--|
| 1. 発表者名<br>Megumi Sakamoto   |
| 2. 発表標題<br>Erratic eating habits and related education for economically and socially high-risk mothers and nursery school children |
| 3. 学会等名<br>The 3rd International Society of Caring and Peace Conference (国際学会)   |
| 4. 発表年<br>2017年  |

## 〔図書〕 計3件

|                                  |                 |
|----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>津田謹輔、伏木了、本田桂子監修、恩田理恵、他 | 4. 発行年<br>2016年 |
| 2. 出版社<br>中山書店                   | 5. 総ページ数<br>172 |
| 3. 書名<br>臨床栄養学 総論                |                 |

|                                       |                 |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名<br>諏訪部章、奈良信雄、三村邦裕、安東賢太郎、恩田理恵、他 | 4. 発行年<br>2023年 |
| 2. 出版社<br>医歯薬出版                       | 5. 総ページ数<br>208 |
| 3. 書名<br>チーム医療論/多職種連携・栄養学・薬理学・認知症     |                 |

|  |                 |
|--|-----------------|
| 1. 著者名<br>渡邊早苗、寺本房子、松谷美和子、坂本めぐみ、恩田理恵、他 | 4. 発行年<br>2018年 |
| 2. 出版社<br>医歯薬出版                        | 5. 総ページ数<br>212 |
| 3. 書名<br>健康と医療福祉のための栄養学                |                 |

## 〔産業財産権〕

## 〔その他〕

本学の保健医療学部がJICA青年研修「地域保健医療」プログラム（オンライン）を実施しました  
<https://www.komatsu-u.ac.jp/whatsnew/news/2022/03/jica-1.html>



## 6. 研究組織

|       | 氏名<br>(ローマ字氏名)<br>(研究者番号)                         | 所属研究機関・部局・職<br>(機関番号)  | 備考                |
|-------|---|--|-------------------|
| 研究分担者 | 兼宗 美幸<br><br>(Kanemune Miyuki)<br><br>(50214490)  | 埼玉県立大学・保健医療福祉学部・准教授<br><br><br>(22401)   |                   |
| 研究分担者 | 恩田 理恵<br><br>(Onda Rie)<br><br>(10307077)         | 女子栄養大学・栄養学部・教授<br><br><br>(32625)  |                   |
| 研究分担者 | 三上 由美子<br><br>(Mikami Yumiko)<br><br>(60760113)   | 防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・講師)<br><br><br>(82406)    | 2019年3月18日研究分担者削除 |
| 研究分担者 | 西岡 笑子<br><br>(Nishioka Emiko)<br><br>(70550797)   | 防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・教授)<br><br><br>(82406)    | 2019年3月18日研究分担者削除 |
| 研究分担者 | 山岸 智子<br><br>(Yamagishi Tomoko)<br><br>(40758760) | 防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・その他・助教)<br><br><br>(82406)    |                   |
| 研究分担者 | 古谷 健一<br><br>(Furuya Kenichi)<br><br>(20538706)   | 防衛医科大学校(医学教育部医学科進学課程及び専門課程、動物実験施設、共同利用研究施設、病院並びに防衛・産科婦人科学・教授)<br><br><br>(82406) |                   |

## 7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

## 8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
|         |         |